

看護学講座 コミュニティ看護学

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	長谷川 美香	1999. 4. 1～
教授	四谷 淳子	2016. 4. 1～
准教授	北出 順子	2008. 4. 1～
講師	川口 めぐみ	2009. 4. 1～
助教	夏梅 るい子	2014. 4. 1～
助教	平井 孝治	2017. 4. 1～
助教	青木 未来	2019. 4. 1～
助教	岡本 智子	2020. 4. 1～

2. 研究概要

研究概要

コミュニティ看護学分野は、地域看護学・老年看護学・精神看護学の3領域から構成されている。

地域看護学では、地域で生活する人々および健康課題を持つ人々の心身の健康の維持・向上への支援に貢献できる看護学研究を目指している。前年度からの研究テーマを継続し、次のような研究活動を行っている。

1. バングラデシュ国 バイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト

本工学部、愛知医科大学、広島工業大学、AOSED (An Organization for Socio-Economic Development, Bangladesh) との協働により、バングラデシュの安全な水の確保と住民の健康改善に重点置いたフィールドワーク研究と国際協力を推進した。

2. 大学生のデートDV予防、DV相談支援体制の強化

親密な関係にある若者間のデートDV予防教育プログラムの開発及び、プログラム評価に用いるデートDVに関する態度を測定する日本語版尺度を開発した。これらの尺度を用い、大学生を対象としたデートDV予防教育プログラムの有用性を検証した

3. 低出生体重児の母親に関する研究

低出生体重児の母親の育児不安軽減のための育児支援構築を目的に、母親の育児不安の特徴の明確化に取り組んでいる。

5. 若年性認知症に関する研究

若年性認知症者の就労継続のための支援構築を目的に、若年性認知症者の就労継続困難の実態と問題の明確化に取り組んでいる。

4. 退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発

シルバー人材センターに所属する団塊世代を中心とした退職後高齢者の社会参加と主体的健康づくりに関して、住民参加型アクションリサーチを用いて参加者の主体性や健康意識に対し経年的な変化を追跡している。

7. 健康づくり活動における地域住民と保健師の協働関係の解明

地域住民と保健師との協働関係に関して、現代のみならず戦前期に遡り記述化に取り組んでいる。具体的には、健康づくりを題材にした戦前・戦中期における保健師機能の明確化、および福井県美浜町と共に健康づくり活動の企画・推進・評価を行っている。

老年看護学では、高齢者が健やかに生活・療養できる環境の整備のために、工学系分野と連携するなど新しい技術を取り入れながら研究を進めている。

1. 寝たきり高齢者の褥瘡およびスキントアを予防するシーツの開発

スキントア（外傷性創傷）は、高齢者の脆弱化した皮膚に些細な摩擦やずれを起こすことによって発生するといわれている。そこで、シーツやリネンの素材も発生リスクになると考え、これまでの褥瘡研究の成果をもとに、褥瘡だけでなくスキントアを予防するシーツやリネンの開発を地元福井の企業と取り組んでいる。

2. ウレタンフォームマットレスのへたりと褥瘡発生の関係

褥瘡予防用マットレスであるウレタンフォームの劣化が体圧に影響すると言われており、日本褥瘡学会のガイドラインにおいてもマットレスの劣化の確認が推奨されている。これまでの調査において、臀部のへたりがもっとも大きく、ベッドの頭側上時に体圧が最も高いこと、へたりに応じて体圧値が上昇する傾向であったことを報告してきた。しかし、マットレスのへたりと褥瘡発生の関係について調査したものはなく、へたりがどれくらいになれば、褥瘡発生に影響するのかわからない。そのため、マットレスを交換するタイミングに苦慮しているのが現状である。そこで、本研究ではウレタンフォームマットレスのへたり状況と褥瘡発生の関係を検証する。

3. 超音波画像（エコー）を用いた褥瘡の肉芽組織の客観的評価方法の確立と自動判別システムの構築

褥瘡の肉芽組織の評価は、創面を占める良性肉芽の割合で点数化されている。肉芽が良性か不良かの判断は主観的なもので、評価者により評価が異なることがある。そこで本研究では、褥瘡の肉芽組織の病理組織所見、肉眼的所見と触診の所見、超音波診断検査の所見を統合し、エコーによる肉芽組織の客観的評価方法を確立し、自動判別システムを構築することを目指す。

4. ドライスキンおよびスキントアを予防・改善するためのアセスメント・ケア方法の開発

高齢者の大きな健康問題に、ドライスキンとスキントアがある。ドライスキンによって生じるかゆみや発赤、スキントアによる創傷や感染の危険の持続・悪化は高齢者のQOLを著しく脅かす。このドライスキン、スキントアの改善のために、看護師は保湿剤を用いたスキントアを行っている。しかし、臨床現場では改善しきれていない高齢者のドライスキンがみられるのが現状である。加齢により脆弱になった高齢者の皮膚に最善のケアを施すために、基礎研究ならびに臨床研究に取り組んでいる。

精神看護学では、心の病をもつ方やその家族の健康増進、家族のもつ力の向上に関する研究に取り組んでいる。主要な研究テーマとして、次のような研究活動を行っている。

1. まず、統合失調症をもつ方の負担軽減とレジリエンスを高めることを目的とした看護支援プログラム介入の効果と唾液ストレスセンサの変化に着目して検証している。また、地域高齢住民の認知機能に関連する要因を分析し、認知症予防のための支援を検討している。加えて、児童・青年期の子どもが示す神経発達症・食行動異常・睡眠の問題の予防に向けた背景因子の調査、病態の解明に向けた血中マーカーの探索をおこない、それらの家族を支援する臨床研究を推進している。

キーワード

看護、国際協力、低出生体重児、保健師活動の歴史、シルバー人材センター、豪雨災害、体圧分散、保湿ケア、統合失調症、神経発達症、摂食障害

業績年の進捗状況

【地域看護学】

1. バングラデシュ国 バイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト

改良版三角形太陽熱淡水化装置（TrSS）の形状が造水性能に及ぼす影響結果を踏まえ、現地住民のニーズに基づき、TrSSの再設計とTrSSの現地における造水シミュレーションを実施し、改良版TrSSの造水量UPを確認した（土木学会論文集にて公表）。また、TrSS導入前後の現地住民の塩分摂取量と血圧を継続的に測定した結果、TrSS導入後に有意な血圧低下がみられ、健康状態の改善が確認された（51th APAGPH Conferenceにて発表）。

2. 大学生のデートDV予防、DV相談支援体制の強化

Justification of Verbal/Coercive Tactics Scale, Attitudes About Aggression in Dating Situationsの日本語版尺度を開発・活用し、大学生を対象としたデートDV予防教育プログラムの有用性を検証し、プログラム受講後の心理的DVに関する認識の有意な上昇傾向が確認された。また、福井県ではDV相談受理件数と一時保護件数間に有意な正の相関関係があったが、全国では有意な負の相関関係であり、福井県のDV被害者は一時保護が必要な状況になってから相談機関につながっている可能性を示唆された（World Nursing and Health Care Congressにて発表）。

3. 職種チームで支える在宅医療・ケア実現のためのIPE（多職種連携実践教育）の推進

嶺南地区での地域医療人育成のため、小浜病院での「在宅施設と病院をつなぐ多職種連携セミナー」（54人参加）、若狭町での「若狭町生き抜くプロジェクト」

2回（計228人参加）を実施した。

4. 低出生体重児の母親に関する研究

低出生体重児の母親の育児不安の影響要因は育児に対する自己効力感であったことを明らかにした。

5. 若年性認知症に関する研究

若年性認知症者の就労・経済的・心理的問題、家族への影響があり、当事者の就労継続意欲があっても就労を諦める傾向があることを明らかにした。

6. 退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発

地方農村部のシルバー人材センターにおいて団塊世代を中心とした介護予防に関するグループを結成し組織全体の健康を考える取り組みに参画する活動の第2サイクル目の経過を追った。

7. 健康づくり活動における地域住民と保健師の協働関係の解明

保健師規則が制定された前後で保健指導の内容が変化していたことを明らかにした。また、同時期における国保保健婦のアプローチ方法は、農村部の住民・住民組織の特性に合わせたものであったことを当時の文献から示唆した。

【環境科学】

平成16年福井豪雨の被災地区と非被災地区における調査では、145名の有効回答を解析した結果、環境整備面において、非被災地区では男女別トイレよりも給水場を第1位とする要望が多かったが、被災地区では給水場と男女別トイレをともに整備する要望が多く、在宅避難時でも男女別トイレのニーズが給水場に劣らず大きいことが判明した。本研究は北陸公衆衛生学会誌第46巻1号（2019年10月）に資料として掲載された。

【老年看護学】

1. 寝たきり高齢者の褥瘡およびスキントアを予防するシーツの開発

企業と連携し、新たな生地を開発を進めた。新たな生地は、一般的に使用されている綿（平織り）に比べて、摩擦係数・すれ力も低いことがわかった。生地の物性試験、寝床内環境試験を経て、製品化を進める。

2. ウレタンフォームマットレスのへたりと褥瘡発生の関係

業績一覧

附属病院褥瘡委員会と連携し、マットレスのへたり調査を実施した。さらにマットレスのへたりと褥瘡発生の関係を検証するため、附属病院スタッフと連携し計画立案をした。

3. 超音波画像（エコー）を用いた褥瘡の肉芽組織の客観的評価方法の確立と自動判別システムの構築

4. ドライスキンおよびスキントケアを予防・改善するためのアセスメント・ケア方法の開発

施設を利用している高齢者を対象とし、スキントケアを他者に依存している高齢者の皮膚状態や介護者によるスキントケアの実施状況を明らかにすることを目的とし調査を実施した。皮膚生理機能測定（角層水分量、経表皮水分蒸散量、キメ）、スキンフレイルスクリーニングツールを用いた調査では、上肢より下肢の方が皮膚が乾燥していることが明らかとなった。施設スタッフはスキントケアを行うことの重要性を感じているものの、十分に実施できていると感じているスタッフは半数程度に留まっていた。

【精神看護学】

1. 統合失調症をもつ人とその家族の負担軽減および回復力を高めるための看護支援プログラムを精神疾患をもつ当事者の助言を受けて構築した。また、地域高齢者の認知機能と脳波が関連すること、摂食障害のリスクが睡眠の問題と関連すること、臍帯血中の脂質分子がその後の神経発達症に影響することを明らかにした。これらの結果を学術誌および学会にて公表した。

特色等

【地域看護学】

主として保健師教育課程科目を担当している。学部教育では、ふくい看護論Ⅰ、ふくい看護論Ⅱ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学展開Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、産業保健論、学校保健論、国際保健論、在宅看護論、公衆衛生看護学実習（県・市町村実習）、在宅看護学実習、地域ケア実習、および基礎専門科目である健康科学論等を担当している。また、卒業研究では、在宅看護、公衆衛生看護に関するテーマでの論文作成を指導している。

大学院教育では、地域看護学特論、地域看護学演習、地域看護学特別研究等の専門科目、及び共通科目である看護倫理、看護研究、災害看護専門看護師教育課程科目である災害看護学特論Ⅲ、がん看護学特論Ⅱ、がん看護学特論Ⅴの一部を担当し、老年看護専門看護師教育課程科目である老年看護学特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅳの一部と老年看護学特論Ⅴを担当している。

研究においては科学研究費補助金、JICA事業予算を獲得し、バングラデシュ、福井県および県内の市町村と協力し研究を推進している。国際支援機関、地方自治体等と協働した研究を行うことにより、より具体的に当該国・自治体の健康づくりの施策化、および人材育成に貢献している。また、福井県の課題である在宅医療推進に向け、県内の医療機関と連携し活動を展開している。これらの成果は国内外の学会で発表し、研究成果を教育に還元している。

【環境科学】

地球温暖化に伴い、毎年甚大化する豪雨災害対策として、新型コロナウイルス感染症流行時では、避難所だけでなく在宅避難も検討する必要性が高まっている。本研究は、地区住民の弱者を支援する立場にある社会福祉協議会会員の在宅避難時における要望を、福井豪雨災害の被災の有無と比較し、被災地区では給水場のみならず男女別トイレの要望も高いことを見出した点が特色である。

【老年看護学】

学部教育では、老年看護学概論、老年看護学活動論、ライフサイクル論、ふくい看護論Ⅰ、ふくい看護論Ⅱ、老年看護学実習を担当している。卒業研究では、老年看護学に関するテーマでの論文作成を指導している。

大学院教育では、老年看護学特論、老年看護学演習、老年看護学特別研究等の専門科目、および共通科目である看護研究を担当している。また、2019年4月から老年看護専門看護師教育課程を開講し、複雑で多様な健康問題をもつ高齢者とその家族が尊厳のある質の高い生活を送れるよう、多角的なアセスメント能力、QOL向上に向けた卓越した高度な看護実践能力をもつ人材の育成に貢献している。本課程において老年看護学特論Ⅰ-Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ-Ⅲを担当している。

研究においては、高齢者のQOL向上を目標に褥瘡や排泄ケア等の老年症候群について予測、予防のための新たな看護方法論の創出に向け取り組んでいる。看護学だけでは解決できないと思われる課題を、工学系分野と連携し新しい技術を取り入れた手法を用いて解決を試みている。

【精神看護学】

学部教育では、メンタルヘルス看護実践方法論、ライフサイクル論ⅡⅢ、ふくい看護論Ⅲ、看護実践総合演習、精神看護学実習を担当している。また、卒業研究では、精神疾患をもつ方の再発予防および地域生活定着のための支援、精神疾患をもつ人の家族に関するテーマでの論文作成を指導している。

研究においては、精神疾患をもつ人の再発予防や地域生活継続に向けた支援、精神疾患をもつ人の家族支援をテーマに研究に取り組んでいる。特に、精神疾患をもつ人とその家族の困難からの回復力に着目し、その力を高めるための看護支援プログラムの構築に努めている。

本学の理念との関係

本学の中期計画である【2】地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献するという点を考慮し、研究、教育、地域貢献を行っている。

【地域看護学】

研究では、「大学生のデートDV予防教育プログラムの開発に関する研究」（基盤研究（C））、「退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発」（基盤研究（C））、「住民と国保健康婦が協働した戦後健康づくり活動の過程と展開に関する歴史社会学的研究」（基盤研究（C））、「バングラデシュ国 バイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト」（JICA草の根協力事業）、低出生体重児の母親に関する研究等を行っている。

これらの教育・研究は、国外、県内地方自治体等と協働し、地域特性を鑑みためのものである。特に学部教育では、実際に地域に出向き、住民と接することで地域の健康課題を見出す演習を設けるなど、地域により密着した教育を行っている。本学の中期目標にある『地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する』をまさに実践中である。

地域貢献としては、福井県、県内の市町村の各種委員会委員および委員長、専門職業人、地域住民を対象とした研修会講師、DV被害を受けた女性の自助グループの活動支援等に携わっている。

【環境科学】

地球温暖化に伴い、毎年甚大化する豪雨災害対策として、新型コロナウイルス感染症流行時では、避難所だけでなく在宅避難も検討する必要性が高まっている。本研究は、地区住民の弱者を支援する立場にある社会福祉協議会会員の在宅避難時における要望を、福井豪雨災害の被災の有無と比較し、被災地区では給水場のみならず男女別トイレの要望も高いことを見出した点が特色である。

【老年看護学】

高齢者のQOL向上を目標に褥瘡や排泄ケア等の老年症候群について予測、予防のための新たな看護方法論の創出に向けた老年看護学の研究に取り組んでいる。看護学だけでは解決できないと思われる課題を、工学系分野と連携し新しい技術を取り入れた手法を用いて解決を試みている。

【精神看護学】

精神疾患をもつ方の再発予防および地域生活定着のための支援について医療・福祉・保健の専門職との連携や看護職の役割に関する研究・教育を行っている。

3. 研究実績

区分	編数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
	2016～2021年分	2022年分	2016～2021年分	2022年分
和文原著論文	14	1	—	—
英文論文	ファーストオーサー	2	1.688(1.688)	3.405(3.405)
	コレスポンディングオーサー	0	0(0)	3.405(3.405)
	その他	8	19.22(19.22)	11.207(11.207)
	合計	9	4	20.908(20.908)

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文（審査有）

22112022 Megumi Kawaguchi, Kazuyo Kitaoka, Miho Katayama, Hiromi Morioka, Midori Kawamura, Akiyo Nakamoto: Developing "Patients and Public Involvement" Nursing Support Program to Improve People with Schizophrenia's Family Resilience, Journal of Interdisciplinary Research of the School of Medical Sciences, University of Fukui, 23, 1-10, 202303, DOI: 10098/00029198

22112023 Yuta Iinuma, Sou Nobukawa, Kimiko Mizukami, Megumi Kawaguchi, Masato Higashima, Yuji Tanaka, Teruya Yamanishi and Tetsuya Takahashi: Enhanced temporal complexity of EEG signals in older individuals with high cognitive functions, Frontiers in Neuroscience, 16, 878495, 20220921, DOI: 10.3389/fnins.2022.878495, #5.152

22112024 Umeda N, Hirai T, Ohto-Nakanishi T, Tsuchiya KJ, Matsuzaki H.: Linoleic acid and linoleate diols in neonatal cord blood influence birth weight, Frontiers in Endocrinology, 13, 986650, 20220825, DOI: 10.3389/fendo.2022.986650, #6.055

22112025 Takaharu Hirai, Yuta Mitobe, Hiromi Hirai, Momoka Takeda, Mikiko Hayashi: Potential eating disorder exhibited with daytime functional vulnerabilities associated with sleep problems in Japanese adolescents: A cross-sectional study, Brain and Behavior, 12(6), e2605, 202206, DOI: 10.1002/brb3.2605, #3.405

b. 原著論文（審査無）

c. 原著論文（総説）

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

22112026 Matsuzaki H, Umeda N, Hirai T, Tsuchiya KJ.: Linoleic acid and linoleate diols in neonatal cord blood influence birth weight., Free Radic. Biol. Med., 192(S1), 88, 20221101, DOI: 10.1016/j.freeradbiomed.2022.10.154, #8.101

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

22112027 看護理工学会：エコーを用いる点滴トラブル予防を目指した末梢静脈カテーテル留置技術ベストプラクティス，照林社，20220330，978-4796525602

c. 編集・編集・監修

(4) 和文：論文等

a. 原著論文（審査有）

22112028 夏梅るい子、長谷川美香、米澤洋美：NICUを退院した低出生体重児の母親の育児不安と育児ソーシャル・サポート、育児に対する自己効力感との関連、北陸公衆衛生学会，49(1)，1-8，20220930

b. 原著論文（審査無）

c. 総説

d. その他研究等実績（報告書を含む）

22112029 長谷川美香：福井そして北陸公衆衛生学会との出会い，北陸公衆衛生学会誌，69，21-22，202303

22112030 北出順子：戦中期における保健指導技術の変容，医学史研究，(103-104)，49-62，202303

22112031 北出順子：行政専門職との協働から考える可能性，協同の発見，357(8)，69-70，202208

22112032 北出順子：「よい仕事」をつくるにはプロセスがある，協同の発見，354(5)，68-69，202205

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

22112033 Takaharu Hirai, Yuta Mitobe, Hiromi Hirai: Associations between sleep problems and disordered eating in Japanese adolescents: A cross-sectional study, Adolescent Nursing, Adolescent Health and Development Conference, 20220321

d. 一般講演（ポスター）

22112034 Hideo Matsuzaki, Naoko Umeda, Takaharu Hirai, Kenji Tsuchiya: Linoleic acid and linoleate diols in neonatal cord blood influence birth weight, Society for Redox Biology and Medicine, 20221116

22112035 Katayama M, Aijyo R, Kawaguchi M, Nakamoto A, Morioka H, Kawamura M and Kitaoka K: Process of changing emotions toward the child in a mother with bonding disorder, The 25th East Asia Forum of Nursing Scholars, web, 20220421

業績一覧

- 22112036** Hiromi Morioka, Akiyo Nakamoto, Miho Katayama, Megumi Kawaguchi, Midori Kawamura: About the hope in the condition of the preparation for quality of dying and death for community-dwelling aged people, The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, web, 20221018
- 22112037** M. Kawaguchi, M. Katayama, A. Nakamoto, H. Morioka, M. Kawamura, and K. Kitaoka: Siblings' experiences of people with schizophrenia, The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, web, 20221018
- e. 一般講演**
- f. その他**
- (2) 国内学会（全国レベル）**
- a. 招待・特別講演等**
- b. シンポジスト・パネリスト等**
- 22112038** 四谷淳子: Microclimateの管理が褥瘡発生に与える影響, 第24回日本褥瘡学会学術集会, 20220828
- c. 一般講演（口演）**
- 22112039** 夏梅るい子: 戦前期における乳幼児死亡の特徴, 医学史研究会総会, web, 20220618
- 22112040** 梅田尚子, 平井孝治, 土屋賢治, 松崎秀夫: 新生児臍帯血中のリノール酸とリノール酸ジオールは出生体重に影響する, 第49回日本脳科学会, 20221203
- 22112041** 平井孝治, 梅田尚子, 土屋賢治, 西村倫子, 松崎秀夫: 自閉症特性を予測する脂肪酸代謝物, 第49回日本脳科学会, 20221203
- 22112042** 新山真奈美, 夏梅るい子: 若年性認知症者の就労継続支援の実態調査第2報, 第23回日本認知症ケア学会, web, 20220618
- 22112043** 畑菜都希, 四谷淳子, 青木未来, 岡本智子: 体圧分散マットレスの違いがマイクロクライメットと皮膚生理機能に及ぼす影響, 第24回日本褥瘡学会学術集会, 20220828
- 22112044** 北出順子: 戦中期保健活動における地域住民と保健婦の関係, 医学史研究会総会, オンライン, 20220618
- 22112045** 大久保貢, 四谷淳子, 中切正人, 田中幸治: 高大連携探究プロジェクトと高大接続型選抜試験の開発～福井大学医学部看護学科の事例～, 全国大学入学者選抜研究連絡協議会第17回大会, 20220528
- d. 一般講演（ポスター）**
- 22112046** 坪川悦子, 米澤洋美, 長谷川美香: 成人女性の中食購入の実態, 第25回日本地域看護学会学術集会, web, 20220827, 日本地域看護学会第25回学術集会講演集, 150, 202208
- 22112047** 岩淵俊樹, 平井孝治, 梅田尚子, 與語英人, 西宮祐太, 西垣勇希, 山本英典, 辻井正次, 土屋賢治, 松崎秀夫: 自閉スペクトラム症成人における脳内グルタミン濃度の検討: MRS研究, BPCNP4学会合同年会, 20221104
- 22112048** 新山真奈美, 夏梅るい子: 相談のために来所した若年認知症者の特性, 第64回日本老年社会科学学会, web, 20220702, 日本認知症ケア学会誌, 21(1), 135, 2022
- e. 一般講演**
- f. その他**
- 22112049** 四谷淳子, 嶋雅代, 内江希, 高村理絵子, 飯田悠紀子, 岡本智子, 青木未来: 妊娠後期の妊婦における体圧分散マットレスの使用基準の検討, 第24回日本褥瘡学会学術集会, 20220828
- 22112050** 青木未来, 四谷淳子: 高齢者のドライスキン改善に向けた皮膚タイプ分類のための基盤研究, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 20220520
- (3) 国内学会（地方レベル）**
- a. 招待・特別講演等**
- 22112051** 四谷淳子: 新たな褥瘡予防「Microclimateの管理」, 第18回日本褥瘡学会関東甲信越地方学術集会, 20220409
- b. シンポジスト・パネリスト等**
- c. 一般講演（口演）**
- 22112052** 畑菜都希, 青木未来, 岡本智子, 四谷淳子: ポジショニングビローのカバーの違いがマイクロクライメットと皮膚皮膚生理機能に及ぼす影響, 第17回日本褥瘡学会中部地方学術集会, 20220612
- d. 一般講演（ポスター）**
- e. 一般講演**
- f. その他**
- (4) その他の研究会・集会**
- a. 招待・特別講演等**
- b. シンポジスト・パネリスト等**
- c. 一般講演（口演）**
- d. 一般講演（ポスター）**

e. 一般講演

f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	研究活動スタート支援	高齢者のドライスキン改善のための簡易的皮膚アセスメント法の開発	青木 未来		20190830-20230331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	光老化に着目した高齢者ドライスキン改善のための皮膚タイプ分類の確立	青木 未来		20210401-20250331	¥520,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	エコーを用いた褥瘡の肉芽組織の客観的評価方法の確立と自動判別システムの構築	四谷 淳子	田邊 将之	20190401-20230331	¥780,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	摂食障害の子どもをもつ親に対する簡易版心理教育の効果検証	平井 孝治		20190401-20230331	¥260,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における介護予防プログラム構築	米澤 洋美	長谷川 美香, 北出 順子, 秋原 志穂	20200401-20240331	¥780,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	大学生のデートDV予防と援助要請行動促進を一体化した教育プログラムの開発	長谷川 美香	米澤 洋美, 川口 めぐみ, 北出 順子	20200401-20240331	¥910,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	住民と国保健康婦が協働した戦後健康づくり活動の過程と展開に関する歴史社会学的研究	北出 順子	長谷川 美香, 米澤 洋美	20180401-20230331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	統合失調症をもつ人の家族レジリエンスを高めるための看護支援プログラムの効果検証	川口 めぐみ	平井 孝治, 長谷川 美香, 北岡 和代	20200401-20240331	¥520,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	地域在住高齢者におけるサルコペニア肥満の超音波検査を用いた新たな診断指標の解明	岡本 智子	四谷 淳子, 北出 順子, 荻田 美穂子	20210401-20240331	¥1,170,000
文部科学省科学研究費補助金	研究活動スタート支援	糖尿病患者に特有のサルコペニア発症・進展および転倒の規定要因：5年追跡調査	岡本 智子		20200401-20230331	¥0

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
共同研究	富士経編株式会社	介護負担の軽減につながるオシャレで機能的なルームウェアの研究開発	四谷 淳子, 青木 未来	20221228-20230310	¥374,400
共同研究	株式会社サーモンテック	隠れ肥満やサルコペニア肥満を可視化するエコー機器開発・事業化	四谷 淳子, 岡本 智子	20220501-20220831	¥2,230,800

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
受託研究	セーレン株式会社	セリシン定着製品の着用効果検証	四谷 淳子, 長谷川 稔, 山下 義裕, 青木 未来	20230125-20230929	¥409,240
受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	高齢者排便ケアへの活用を目的としたAIエコーシステムの開発	四谷 淳子	20221001-20240331	¥10,530,000

(B) 奨学寄附金

受入件数	2
受入金額	¥700,000

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本公衆衛生看護学会	一般会員	長谷川 美香
北陸公衆衛生学会	一般会員	長谷川 美香
日本在宅ケア学会	一般会員	長谷川 美香
日本看護研究学会	一般会員	長谷川 美香
American Public Health Association	一般会員	長谷川 美香
日本看護科学学会	一般会員	岡本 智子
日本看護医療学会	一般会員	長谷川 美香
INTERNATIONAL COLLABORATION FOR COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH	一般会員	長谷川 美香
日本家族看護学会	一般会員	長谷川 美香
日本看護科学学会	一般会員	長谷川 美香
日本結核・非結核性抗酸菌学会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生看護学会	一般会員	米澤 洋美
日本看護科学学会	一般会員	米澤 洋美

業績一覧

日本医学看護学教育学会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生学会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生看護研究会	一般会員	米澤 洋美
日本地域看護学会	一般会員	長谷川 美香
日本保健医療社会学会	一般会員	北出 順子
日本高血圧学会	一般会員	北出 順子
北陸公衆衛生学会	一般会員	北出 順子
日本健康心理学会	一般会員	北出 順子
日本ケアマネジメント学会	一般会員	北出 順子
日本公衆衛生学会	一般会員	北出 順子
医学史研究会	一般会員	北出 順子
日本循環器病予防学会	一般会員	北出 順子
日本地域看護学会	一般会員	北出 順子
日本看護研究学会	一般会員	川口 めぐみ
心理教育・家族教室ネットワーク	一般会員	川口 めぐみ
日本精神障害者リハビリテーション学会	一般会員	川口 めぐみ
日本精神科看護技術協会	一般会員	川口 めぐみ
日本精神保健看護学会	一般会員	川口 めぐみ
日本家族看護学会	一般会員	川口 めぐみ
北陸公衆衛生学会	一般会員	夏梅 るい子
日本地域看護学会	一般会員	夏梅 るい子
医学史研究会	一般会員	夏梅 るい子
日本公衆衛生看護学会	一般会員	夏梅 るい子
日本認知症ケア学会	一般会員	夏梅 るい子
日本脳科学学会	一般会員	平井 孝治
日本看護科学学会	一般会員	平井 孝治
心理教育・家族教室ネットワーク	一般会員	平井 孝治
日本創傷治療学会	一般会員	青木 未来
看護実践学会	一般会員	青木 未来
国際リンパ浮腫プラットフォームワークジャパン研究協議会	一般会員	青木 未来
日本褥瘡学会	一般会員	青木 未来
日本創傷・オストミー・失禁管理学会	一般会員	青木 未来
日本看護技術学会	一般会員	青木 未来
日本老年看護学会	一般会員	青木 未来
日本看護科学学会	一般会員	青木 未来
日本認知症ケア学会	一般会員	青木 未来
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	一般会員	青木 未来
看護理工学会	一般会員	青木 未来
日本香粧品学会	一般会員	青木 未来
日本老年看護学会	一般会員	岡本 智子
日本サルコペニア・フレイル学会	一般会員	岡本 智子
日本糖尿病学会	一般会員	岡本 智子
日本循環器病予防学会	一般会員	岡本 智子
看護理工学会	一般会員	岡本 智子
日本疫学会	一般会員	岡本 智子
日本神経化学学会	一般会員	平井 孝治
日本看護研究学会近畿北陸地方会	世話人	川口 めぐみ
日本看護科学学会	代議員	四谷 淳子
日本褥瘡学会	理事	四谷 淳子
日本褥瘡学会中部地方会	世話人	四谷 淳子
日本DOHaD学会	一般会員	平井 孝治

(C) 座長

国内学会 (全国レベル)	学会名	氏名
その他	第24回日本褥瘡学会学術集会	四谷 淳子
一般講演(口演)	International Conference on Adolescent Nursing	平井 孝治

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長(主査)・委員の別	氏名	査読編数
----------	-------	--------------	----	------

(E) その他